

関係各位

2022年10月期第3四半期 連結決算の概要

2022年9月8日
株式会社トップカルチャー

(1) 総括

当社グループの2022年10月期第3四半期連結決算（2021年11月1日～2022年7月31日）は、以下の通りです。

- ・売上高*は、161億24百万円（前年同四半期 206億13百万円）
- ・営業利益は、1億9百万円（前年同四半期 4億76百万円）
- ・経常利益は、95百万円（前年同四半期 4億3百万円）
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益は、43百万円（前年同四半期純損失 17億88百万円）

* 当年より「収益認識に関する会計基準」を適用したことにより、前年売上高との比較ができないため、前年比は記載しておりません。

(2) 連結業績の要素別分析

売上高

特撰食品の拡大で大手メーカーとコラボした企画販売や地域特産品のオリジナル企画販売が好調でしたが、新型コロナウイルス感染症の第7波の感染急拡大の兆しが見られる中、エネルギー価格の高騰や食料品・生活必需品の値上げラッシュの家計への影響や、「収益認識に関する会計基準」の適用の反映から、売上高は前年水準に届きませんでした。

また、トップカルチャーで展開するゲーム・リサイクル事業につきましては、品揃えや在庫強化による売上拡大を目的とし、6月末以降順次子会社トップブックスが展開するゲーム・リサイクル事業に切り替えを進めております。正味1か月で4店舗が蔦屋書店店内に「ふるいちトップブックス」としてオープンし、グループ全体の同事業における売上高は順調に伸長しております。今後も引き続き切り替えを進めてまいります。

営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益

自動発注システムの構築と徹底した商品・在庫管理による粗利益の改善や、店舗オペレーションの見直しによりコストダウンに努めました。一方で、引き続き原油価格に起因した世界的なエネルギー価格の急激な高騰により、電気代やガス代のコストアップが店舗経営に大きく影響しております。

(3) 2022年10月期の通期業績予想

中期経営計画に掲げました方針に従い、第4四半期につきましても、シナジー効果を高める商品やリーシング展開の強化を継続し、粗利益の改善と運営力の強化によるコストダウンを実現してまいります。

9月30日に長野県最大級の規模となる蔦屋書店佐久平店（長野県佐久市）がオープンいたします。同店は、長らくご愛顧いただいた蔦屋書店佐久小諸店の移転オープンとなりますので、より一層地域の皆さまから愛される店舗作りとなるよう努めてまいります。

以上

本文書に関するお問い合わせ先： 株式会社トップカルチャー 取締役財務部長CFO 吉田 勝一
〒950-2022 新潟市西区小針4-9-1 電話:025-232-0008